

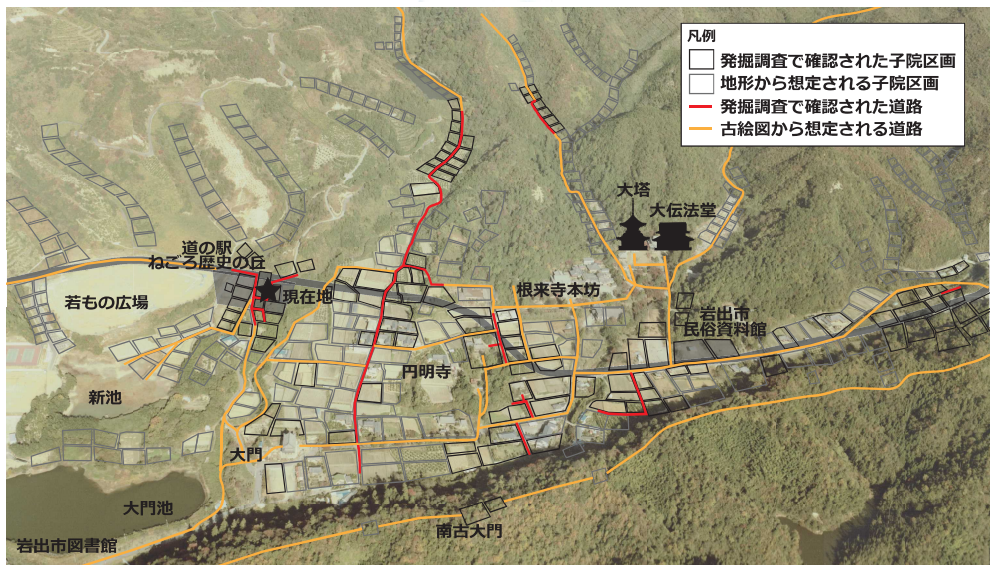
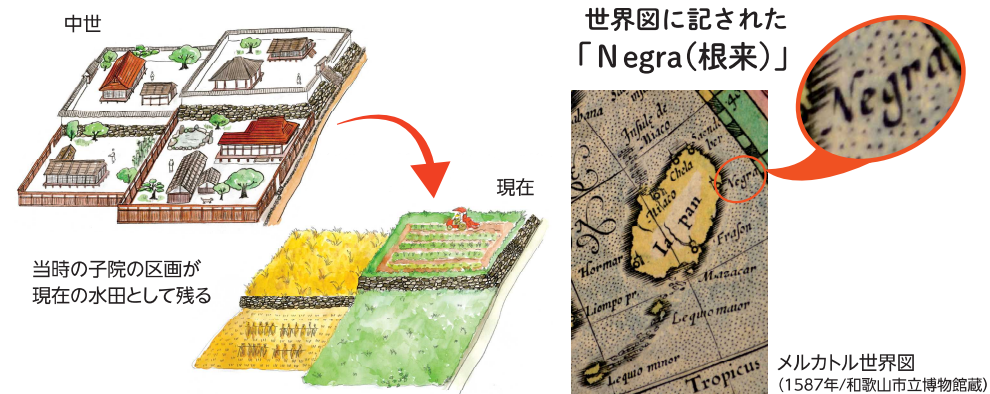
中世根来寺の興亡

根来寺は、平安時代のおわりに覚鑊上人によって高野山で開創され、その後、根来の地に移ります。戦国時代には勢力を伸ばし、宣教師ルイス＝フロイスにより「当時日本で最も栄えた寺院の一つ」と称されました。当時の世界図にも「都：Miaco」「琉球：Lequio」と並び「根来：Negra」と示されており、世界にその繁栄が伝えられました。

しかし、天正13年(1585)に豊臣(羽柴)秀吉の紀州攻めにより、根来寺は大塔、大師堂、山門を残し、多くは焼失してしまいました。

その後、昭和51年(1976)に大規模農道建設に伴い発掘調査が実施され、天正の兵火時のものとみられる焼土層から中世の遺物が大量に発見されました。この発見により、地中には中世根来寺の遺跡が良好に存在していることが明らかになりました。

それ以降、和歌山県、岩出市の発掘調査により、山内の様子が明らかになり、300余りの子院がひしめく中世の根来寺の姿が明らかになりました。発掘調査の内容から、中世根来寺の境内地は史跡根来寺境内、根来寺遺跡として保存され、一乗谷朝倉氏遺跡(福井県)、草戸千軒町遺跡(広島県)と並び日本三大中世遺跡と呼ばれました。



発掘調査成果と地形から山内の様子が復元できる

周辺のみどころ

ねごろ歴史資料館

史跡根来寺境内、根来寺遺跡を紹介するガイダンス施設。中世根来寺の繁栄を出土遺物や映像、写真を用いて解説。本物の備前焼大甕や石造物を近くで見学できる。

●休館日 火曜日(祝日の場合は除く)、12月29日～1月3日 ●入館料 無料



新義真言宗総本山根来寺

根来寺は、新義真言宗の総本山。国宝大塔は国内最大の木造多宝塔で、天文16年(1547)の完成までに67年の歳月をかけ建築された。本尊三尊像、大師堂とともに天正の兵火をまぬがれ、現在に伝えられる。また、大伝法堂、大門などの建物は紀州徳川家の庇護を受け江戸時代に再建された。境内地は史跡として、根来寺庭園は名勝として国の文化財指定を受けている。

●拝観時間 9:10～16:30(冬期は16:00まで) ●拝観料 大人(中学生以上)500円



旧和歌山県議会議事堂

明治31年(1898)に和歌山市一番丁に建設された「和歌山県会」の議事堂。明治期以降の府県会議事堂で木造で和風意匠を基調とした現存唯一の建物で、平成29年7月31日に国の重要文化財に指定された。

●休館日 火曜日(祝日の場合は除く)、12月29日～1月3日 ●入場料 無料



根来寺遺跡展示施設ご利用案内

休 場 日 12月29日～1月3日

入 場 料 無料

所 在 地 岩出市根来2347番22、2348番1

アクセス ●電車及びバス

岩出駅(JR和歌山線)～バス(和歌山バス那賀)で20分
紀伊駅(JR阪和線)～バス(和歌山バス那賀)で30分
和泉砂川駅(JR阪和線)～バス(和歌山バス那賀)で30分
→バス停「ねごろ歴史の丘」下車
バス停「岩出図書館」・「根来寺」下車、徒歩10分

●車

阪和自動車道「泉南IC」より岩出方面へ 15分
京奈和自動車道「岩出根来IC」から右折 3分

問い合わせ 和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課
TEL 073-431-3731

施設の紹介

- 施設では、型取りによって作成した高精細の遺物レプリカを触って楽しむことができます。
- 解説板には音声コードUni-Voiceを設置し、スマートフォンによって日本語、英語、中国語(簡体文・繁体文)、韓国語の読み上げ及び翻訳が可能です。
- 展示施設は、車いす用スロープ・手摺、点字ブロックなどを整備した和歌山県福祉のまちづくり条例に準拠しています。



ねごろじ サイトミュージアム

根来寺遺跡展示施設

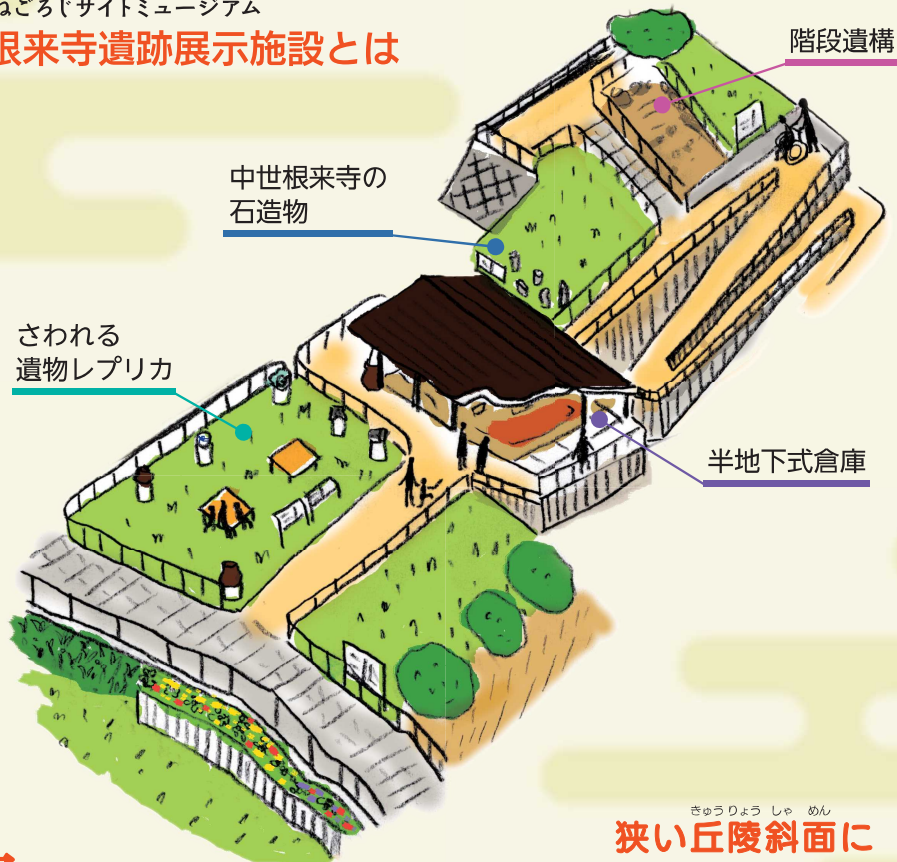


イラスト：たあつこかおり

半地下式倉庫

階段遺構

根来寺遺跡展示施設とは



根

来寺の境内には、「子院」と呼ばれる僧侶の住まいと学びの場が数多くありました。

戦国時代(16世紀)の最盛期には、子院の数が300余りあり、平地のみならず、谷筋や丘陵上といった山内のいたるところに子院が築かれました。

根来寺遺跡展示施設が立つこの場所には、本来は和泉山脈から南へ延びる丘陵がありました。発掘調査により、丘陵を造成した狭い敷地に子院が建ち並んでいることがわかりました。丘陵を造成し、上段、下段に子院が築かれ、敷地の間には階段や通路があり、排水のための溝もありました。

発見された子院の遺構は地下に保存され、その上に半地下式倉庫、階段遺構を型取りした高精細レプリカを展示しています。

中世根来寺の遺構を展示し、中世の根来寺の姿を伝える施設がねごろじサイトミュージアム“根来寺遺跡展示施設”です。

狭い丘陵斜面に立つ子院の姿



狭い丘陵斜面に子院が築かれていた、根来寺遺跡展示施設



発掘された半地下式倉庫を型取りし、現地に展示。 天正の兵火の凄まじさがよくわかる。

半地下式倉庫

半地下式倉庫は地面を掘り、地下を利用した倉庫です。根来寺山内では数多くの半地下式倉庫が見つかっており、根来寺遺跡を代表する遺構の一つです。

発掘された半地下式倉庫には中二階があり、その部分は床が深くなっていました。また中央には土堀による間仕切りがありました。

倉庫の中には、油や液体を入れた大甕や味噌や漬物を入れた桶のほか、米や生活道具が保管されていました。

現地では発掘された半地下式倉庫の型取りレプリカを展示しています。赤く焼けた範囲は、豊臣(羽柴)秀吉の紀州攻めに伴う火災の跡です。



丘陵上へ至る階段と通路を型取りし、現地に展示。 覆いの無い遺跡本来の姿でレプリカ展示。 高さ4mの階段遺構は圧巻！

階段遺構

この場所では、丘陵にある上段と下段の子院を結ぶ階段と通路が発見されました。ここで展示しているのは、階段と通路の一部を型取りしたレプリカです。GRC(ガラス繊維強化セメント)という強度のある素材を使い、露出展示しています。

階段と通路の横には、石垣にそって溝があります。上段の子院の枧(集水口)に集まった水は、石垣の排水口を通りぬけ、この溝に流れる仕組みになっていました。

さわって学べる遺物レプリカを展示。

皿や甕、瓦などの文様や表面の凹凸などを忠実に再現。

さわれる遺物レプリカ

青磁 鉢：明(中国)から輸入された大皿。火災に遭い、釉薬が発泡した痕跡があります。
青磁 付 皿：内面に羯磨文、外面には八宝という仏教の文様が描かれる。寺院が好む文様であるため、商人などから選んで購入された可能性があります。

備前焼 甕：貯蔵に用いられた備前の甕。レプリカでは垂れた釉薬も忠実に再現しました。
備前焼酒徳利：備前焼の酒徳利。米粒状の釉薬が付着しています。

備前焼 大 甕：根来寺山内で数多く出土しており、油、酒、水などの液体が貯蔵されました。
軒 丸 瓦：現地では瓦の出土は少なく、建物の屋根は棟部分のみを瓦で葺き、そのほかは板葺きと考えられます。

おに 鬼 瓦：鬼の形をしたものが多いが、ここでは寺院特有の宝珠玉を形どったものが発見されています。



備前焼甕の
遺物レプリカ



青磁鉢の
遺物レプリカ



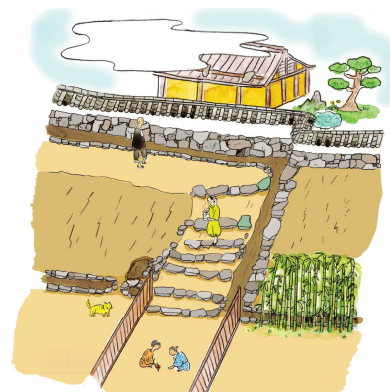
鬼瓦の
遺物レプリカ



半地下式倉庫、赤い範囲は火災の跡



半地下式倉庫の復元イラスト、中二階がある



階段と通路の復元イラスト



階段遺構、発掘された階段と通路を展示

根来寺山内には今も数多くの石造物が残される。 この場所で発掘された石造物をオシャレに展示。

中世根来寺の石造物

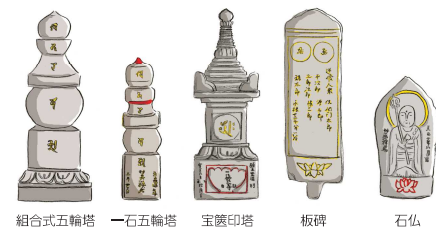
根来寺山内には、今も中世の石造物が多く残されています。

これらの石造物は、五輪塔や宝篋印塔、板碑、石仏など様々な形をしており、主に供養塔や墓石として用いられました。ここに展示しているのは、現地で発掘された石造物の部材です。

石造物の部材で四角く使いやすいものは、後に石垣や溝、階段などの石材としても用いられました。



中世根来寺の石造物



発掘された石造物、金・朱で彩られた

イラスト：たあつこ＝かおり